

1. 化学物質等及び会社情報

製品情報

製品番号	製品名 (製品現物は英文表記)
50560	GLYOXAL SAMPLE BUFFER

会社情報

会社名 : ロンザジャパン株式会社 バイオサイエンス事業部
住所 : 〒104-6591
東京都中央区明石町8-1 聖路加タワー
電話番号 : 03-6264-0660
FAX番号 : 03-6264-0601

2. 危険有害性の要約

「グリオキサール」として

GHS分類区分

健康に対する有害性
急性毒性 (経口) : 区分3
皮膚腐食性及び皮膚刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性 : 区分2A
皮膚感作性 : 区分1
特定標的臓器毒性 (単回暴露) : 区分2 (呼吸器、肝臓、心臓、腎臓、副腎、神経系)
特定標的臓器毒性 (反復暴露) : 区分1 (呼吸器)
環境に対する有害性
水生環境有害性 (急性) : 区分3

GHSラベル要素

絵表示又はシンボル

:



ドクロ



健康有害性

3. 組成及び成分情報

【含有する化学物質の名称】 グリオキサール
【含有率】 下表に示すとおり

含有率 [w/v%]	含有製品の製品コード	製品数
≤20	50560	1

単一の化学物質 / 混合物 : 混合物 (表中製品すべて)

危険有害成分

成分	化学式	官報公示整理番号	CAS番号	EINECS No.
グリオキサール	C ₂ H ₂ O ₂ (58.04)	化審法 (2) - 510	107-22-2	203-474-9

4. 応急措置

- 吸入した場合 : 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
- 皮膚に付着した場合 : 多量の水と石鹼で洗うこと。
汚染された衣類を再使用する前に洗濯すること。
汚染された衣類を脱ぐこと。
皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- 眼に入った場合 : 水で数分間注意深く洗うこと。次に、コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
- 飲み込んだ場合 : 直ちに医師に連絡すること。 口をすすぐこと。
- 予想される急性症状及び遅発性症状 : 皮膚：発赤
眼：発赤、痛み
経口摂取：腹痛、吐き気、嘔吐

5. 火災時の措置

- | | | |
|-------------|---|---|
| 消火剤 | : | 泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類 |
| 使ってはならない消火剤 | : | 棒状放水、水噴霧 |
| 特有の危険有害性 | : | <p>吸入、吸飲、皮膚から吸収されると致命的になるおそれがある。接触により皮膚や眼に炎症をおこすおそれがある。火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。</p> <p>消火水や希釈水は腐食性及び毒性があり汚染を引き起こすおそれがある。</p> <p>加熱により容器が爆発するおそれがある。</p> <p>熱、火花及び火炎で発火するおそれがある。</p> <p>下水溝に流れ込むと火災、爆発の危険がある。</p> <p>蒸気が空気と爆発性混合気をつくるおそれがある。屋内、屋外又は下水溝で爆発の危険がある。</p> |
| 特有の消火方法 | : | <p>移動不可能な場合、容器及び周囲に散水して冷却する。</p> <p>危険でなければ火災区域から容器を移動する。</p> <p>消火水をせき止め、後で廃棄する。物質を拡散させてはいけない。</p> <p>消火活動は、有効に行える最も遠い距離から、無人ホース保持具やモニター付きノズルを用いて消火する。</p> <p>容器内に水を入れてはいけない。</p> <p>消火後も、大量の水を用いて十分に容器を冷却する。</p> |
| 消火を行う者の保護 | : | <p>消火作業の際は、適切な空気呼吸器、化学用保護衣を着用する。</p> <p>適切な空気呼吸器、防護服（耐熱性）を着用する。</p> |

6. 漏出時の措置

- 人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置 : 作業者は適切な保護具（『8. ばく露防止措置及び保護措置』の項を参照）を着用し、眼、皮膚への接触や吸入を避ける。直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。関係者以外の立入りを禁止する。漏洩物に触れたり、その中を歩いたりしない。風上に留まる。低地から離れる。密閉された場所は換気する。全ての着火源を取り除く。近傍での喫煙、火花や火炎の禁止。適切な防護衣を着けていないときは破損した容器あるいは漏洩物に触れてはいけない。
- 環境に対する注意事項 : 環境中に放出してはならない。河川等に排出され、環境へ影響を起ささないように注意する。本製品は、水汚染物なので土壌汚染、もしくは排水溝及び排水系及び大量の水に流入することを防止する。希釈水は腐食性及び/又は毒性があり汚染を引き起こすおそれがある。
- 回収・中和 : 漏洩物を掃き集めて密閉できる空容器に回収し、後で廃棄処理する。
- 封じ込め及び浄化の方法・機材 : 危険でなければ漏れを止める。排水溝、下水溝、地下室、あるいは閉鎖場所への流入を防ぐこと。
- 二次災害の防止策 : すべての発火源を速やかに取除く（近傍での喫煙、火花や火炎の禁止）。排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。容器内に水を入れてはいけない。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い

- 技術的対策 : 適切な保護具を着用する。
- 局所排気・全体換気 : 局所排気、全体換気を行う。
- 安全取扱い注意事項 : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
飲み込まないこと。皮膚との接触を避けること。眼に入れないこと。
環境への放出を避けること。

接触回避 : 情報なし

保管

- 技術的対策 : 情報なし
- 混触禁止物質 : 情報なし
- 保管条件 : 容器を密閉して冷乾所にて保存すること。
施錠して保管すること。
- 容器包装材料 : 情報なし

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度

日本産衛学会 (2007年版) 未設定

ACGIH (2007年版) TWA 0.1 mg/m³

設備対策

- : この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置すること。
作業場には全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

グリオキサール 含有製品

Version
改訂日002
2012年01月20日**保護具**

- | | |
|------------|--|
| 呼吸器の保護具 | : 適切な呼吸器保護具を着用すること。 |
| 手の保護具 | : 適切な保護手袋を着用すること。 |
| 眼の保護具 | : 適切な眼の保護具を着用すること。 |
| 皮膚及び身体の保護具 | : 適切な保護衣を着用すること。
適切な顔面用の保護具を着用すること。 |
| 衛生対策 | : この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
取扱い後はよく手を洗うこと。
汚染された作業衣は作業場から出さないこと。 |

9. 物理的及び化学的性質**物理的状态**

- | | |
|----|----------|
| 形状 | : 液体 |
| 色 | : 無色～淡黄色 |
| 臭い | : データなし |

安全性データ

- | | |
|--------------|---|
| pH | : データなし |
| 沸点 | : 初留点及び沸騰範囲 50.4°C : Lide (84th, 2003) |
| 融点 | : 15°C : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008) |
| 引火点 | : 100°C以上 (40%水溶液) : ICSC (2003) |
| 発火点 | : データなし |
| 爆発性 | : データなし |
| 蒸気圧 | : データなし |
| 比重 (密度) | : 1.14 (20/4°C) : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008) |
| 溶解度 (水、溶剤など) | : 水 : 1000g/L (25°C) : NITE総合検索 (Access on Jul. 2008) |
| 分子量 | |
| オクタノール・水分配係数 | : log Kow=-1.66 : PHYSPROP Database (2005) |
| 分解温度 | : データなし |
| 粘度 | : データなし |
| 粉塵爆発下限濃度 | : データなし |
| 最小発火エネルギー | : データなし |
| 体積抵抗率 (導電率) | : データなし |

10. 安定性及び反応性

- | | |
|------------|----------------------|
| 安定性 | : 通常取扱においては安定と考えられる。 |
| 反応性 | : 情報なし |
| 危険有害反応可能性 | : 情報なし |
| 避けるべき条件 | : 情報なし |
| 混触危険物質 | : 情報なし |
| 危険有害な分解生成物 | : 情報なし |

11. 有害性情報

急性毒性 (経口)	: ラットを用いた経口投与試験のLD ₅₀ =200 mg/kg (環境省リスク評価第2巻(2003))に基づき、区分3とした。
急性毒性 (経皮)	: ウサギを用いた経皮投与試験のLC ₅₀ =12,700 mg/kg (CICAD 57(2004))に基づき、区分外とした。
急性毒性 (吸入)	: (蒸気): ラットを用いた吸入ばく露試験のLC ₅₀ (4時間)=2.44 mg/L (SIDS(2003))(5,860 ppmに相当)は、飽和蒸気圧26.7 kPa (20°C)における飽和蒸気圧濃度 264,000 ppmの90%以下であることから、区分外とした。
皮膚腐食性及び皮膚刺激性	: 情報なし
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性	: 情報なし
呼吸器感作性	: 情報なし
皮膚感作性	: 情報なし
生殖細胞変異原性	: 情報なし
発がん性	: 情報なし
生殖毒性	: 情報なし
特定標的臓器毒性 (単回暴露)	: 情報なし
特定標的臓器毒性 (反復暴露)	: 情報なし
吸引性呼吸器有害性	: 情報なし

12. 環境影響情報**生態毒性**

魚毒性

: LC₅₀=86mg/L (ファットヘッドミノー、96時間、SIDS 2003)**残留性・分解性**

: 急速分解性あり (BODによる分解度: 65%)

生体蓄積性

: 生物蓄積性が低いと推定 (log Kow=-1.66)

土壌中の移動性

: 情報なし

オゾン層への有害性

: 情報なし

13. 廃棄上の注意

- 残余廃棄物 : 廃棄の前に、可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
廃棄においては、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。
都道府県知事などの許可を受けた産業廃棄物処理業者、もしくは地方公共団体がその処理を行っている場合にはそこに委託する。
- 汚染容器及び包装 : 容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。
空容器を廃棄する場合は、内容物を完全に除去すること。

14. 輸送上の注意**国際規格**

- 海上規制情報 : 該当しない
- 航空規制情報 : 該当しない
- 国連番号 : 該当しない

特別安全対策

- : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。
重量物を上積みしない。

15. 適用法令

- 毒物及び劇物取締法 : 非該当
- 労働安全衛生法 : 変異原性が認められた既存化学物質（法第57条の5、労働基準局長通達）
- 大気汚染防止法 : 揮発性有機化合物 法第2条第4項（平成14年度VOC排出に関する調査報告）
- 化学物質排出把握管理促進法（P R T R法） : 第1種指定化学物質（法第2条第2項、施行令第1条別表第1）（政令番号:1-65）
- 消防法 : 非該当

16. その他の情報**【作成年月日、改訂情報】**

作成年月日 : 2011年02月28日

改訂日 : 2012年01月20日

記載内容は現時点で入手できる資料、情報、データに基づいて作成しておりますが、含有量、物理化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保証をなすものではありません。

また、注意事項は通常の見取り方を対象としたものなので、特殊な見取りの場合には、用途・用法に適した安全対策を実施の上、ご利用下さい。